

〈学部長挨拶〉

文学部六十年の歩み

文学部長 三木悦三

本学の前身である熊本県立女子専門学校が創設されましたのは、すでに半世紀を超える昔、昭和二十二年（一九四七年）春四月でした。専門学校や旧制高等学校への女子の入学が認められなかった当時であって、女子高等教育を普及して、戦後日本の復興と再建を図ろうとする諸先達の情熱が伝わってくる思いが致します。このとき「女専」は三年制、英文科・被服科・保健科の三学科（定員各四〇名）から成り、その頃まだ藪之内町（現在の城東町）に所在していた県立第一高等女学校の校内に仮校舎をしつらえての出発でありました。この女専英文科を源流として、爾来、脈々と六十年に及ぶ歴史を文学部は刻んだこととなります。

昭和二十四年（一九四九年）に新制大学令によって女専は熊本女子大学に昇格、学芸学部のもと文学科と生活学科の二学科を擁する我が国最初の公立四年制大学として新生しました。文学科には女専以来の英文科を引き継いだ英文学専攻と現在の日本語日本文学科の前身となる国文学専攻の二専攻が設けられたのでした。昭和二十五年（一九五〇年）に大江の地（現県立劇場）に新キャンパスが完成し、当地へ移転。昭和二十八年（一九五三年）には学部の改編が行なわれ、生活学科は家政学科となつて学芸学部も文家政学部に変わりました。そして、昭和三十五年（一九六〇年）には文学科の両専攻がそれぞれ英文文学科、国文学科として独立します。さらに、昭和三十八年には食物学科が増設され、以後、一学部四学科の体制がしばらく続くこととなります。

昭和五十五年（一九八〇年）、私が本学に赴任して二年目、当時はまだ授業の始めと終わりに教員と学生が互いに礼をする風がありました。さすがに隔世の感を禁じ得ません。ともあれこの年、大学はいよいよ大江キャンパスを離れ、旧飛行場跡である現在の月出に移転、文家政学部を再編して文学部と生活科学部の二学部からなる大学として新たに歩み始めました。以来、月出キャンパスで二十七年の歳月を閲し、この間、平成五年（一九九三年）には大学院文学研究科修士課程日本語日本文学専攻ならびに英

語英米文学専攻の設置、さらに同六年（一九九四年）総合管理学部創設とともに大学は女子大学から男女共学の大学に針路を大きく転換、文学部もそれまでの国文学科と英文学科から日本語日本文学科、英語英米文学科へと名実ともに一新したのでした。

そして昨年、平成十八年（二〇〇六年）四月、法人化を節目としてさらに飛躍するべく、文学部を挙げて新体制の検討に着手しました。かくて平成二十年四月から日本語日本文学科に日本語学・日本文学・日本語教育・地域文化・人文学の五コース、英語英米文学科には英語学・アメリカ文学・イギリス文学・英語教育・日本語教育・人文学の六コースが開設される運びとなり、ここに二十一世紀を展望する体制が整うに至りました。加うるに、文学研究科日本語日本文学専攻博士課程が今春スタートします。また、英語英米文学専攻にも博士課程を設置する準備が着々と進められています。

顧みますれば、幾多の変遷の中、文学部は優れた教員と学生に恵まれ、本学で最も伝統ある学部として社会の各方面に辣腕をふるう有為の人材を輩出して参りました。

いま、六十一年目の初頭に当たり、文学部教員一同、なお一層の発展を期して思いを新たにして居ります。卒業生の皆様、また先学の諸先生方、何卒、今後とも渝わりませず、ご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。